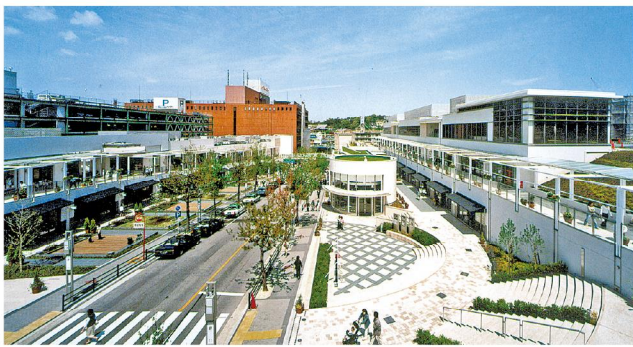


服部 力

服部都市建築設計事務所 会長
(1級建築士、工学博士)

憧れの竹中工務店に入社したのは、1964年のこと。大阪本店で同期生260余人と共に、実務見習ならびに社人への研修生活が始まった。昼間は配属の各専門部署で実務を習い、夜は神戸市深江の研修寮で集団生活をおくった。平日は英会話やパソコン、習字などのレッスンがあり、先輩社員(役員)の講義をカリキュラムに従って受講した。休日はバスケットボールやテニスなど、好みのスポーツを楽しみ、夜はみんなで楽しく会食した。

こうした集団生活の中で、社人としてのマナーを自然に体得していった。そして同じ釜の飯を食べた同期社員との友情が深まり、その絆は太く、52年たった現在も多くの同期生と親交が続く。同社の



「お客さま本位の作品創り」はいまも息づく

創業精神である「信用を第一とし、信義を重んじ、堅実なるべし」は、多くの社員同様、私の仕事に対する基本的な姿勢であり、座右の銘にもなっている。

私が行われているからこそ、日本を代表する大企業の中で、入社3年後、10年後の社員定着率がトップクラスにある所以なのだと思う。

同社の社風はいくつも優れた点があるが、特に感銘を受けたのは、学歴に関係なく、徹底した実力主義が貫かれていること。同時に進取の気風に富み、新しい事象をいち早く情報収集し、検討の上、実践していくこと。さらに新しいセンスを採り入れ、それを研鑽し、気品ある形で建築主に提供すること。こうした術は見事としか言いようがない。また、これらの社風が設計部や開発計画部にとどまらず、すべての部署、全社員に浸透していることに敬服する。

これだけ行き届いた社員教育が行われているからこそ、私が竹中工務店に入社12年目に退職した。父が緊急入院したためだ。しかし、同社で学んだことは今なお、私の仕事の力の源泉となっている。退社した後に設計事務所を開業し、多くの建設会社の方々と仕事をさせてもらった。もちろんその中には竹中工務店もある。同社のみなさんと一緒に仕事をすると、自分が学んだ「お客さま本位の作品創り」の精神が、世代を超えて受け継がれ、今なお秀れた作品を作り続けていることを強く感じる。竹中工務店の方々と今なお一緒に仕事ができることは私にとって幸運であり、何か運命ともいうべきものを感じて止まない。

06年にBCS賞を受賞した「星ヶ丘テラス」(名古屋千種区)